

時、四分の一吋十目とす

本道路工事は其の基礎工事たる地下埋設物及土工排水工事
を直營を以て施行し路面鋪裝工事は日本石油株式會社道路部

に於て請負ひ本年七月十一日より着手し目下歩道路面鋪裝工
事施行中にして大正十四年の秋季に於て全部完成の豫定な
り。

◎マラソン選手の見たる道路

金 栗 四 三

マラソン競争と言へば金栗選手を思ひ、金栗選手と言へばマラソン
競争を思ふといふ程、金栗氏は我國マラソン競走界の大將軍である、
我國に於て初めてマラソン競争が行はれたのは、羽根田競技場(穴守
稻荷の隣)、と神奈川驛との間の往復二十五哩、時は明治四十四年十
一月のことであつた、當日は雨天であつたにも拘らず二時間三十二分
四十秒といふ好レコードで、金栗氏が日本最初の栄冠を獲られたの
であつた。其の後我國のマラソン競走界は逐年著しい發達を遂げ、幾
多優秀な選手も續々として輩出し來り、それ等の選手達の間には少か
らぬ榮枯盛衰があつたが、始終一貫今に至るまで十數年の久しきに亘
つて常勝軍の榮譽を維持し來つてゐるのは、唯一人我金栗氏あるのみ
である、金栗氏が大正三年十一月戸山學校々庭と田垂町の町端との間
二十五哩の競走で作られた二時間十九分二十秒といふ、レコードは未

だ何人も及び得ざる我國の最高記録であるのみならず、實に世界記録
さへも遙かに突破したものととして(世界記録は二時間二十三分餘)今
尙癡として光を放つてゐる。金栗氏は又單に自ら選手としてかゝる優
秀な成績を示して居られるのみならず、指導者として餘暇ある毎に脚
を日本全國各地に伸して斯道奨勵の爲めに力を盡して居られる。特に
暑中休暇で世人が三伏暑熱を山に海に避けてゐるといふ時は、氏が斯
道奨勵の爲めに活躍せられる書入れの時である。大正八年七月二十日
から八月十日まで、下關東京間約二百八十里、大正十年八月一日から
同月二十日まで樺太、東京、木更津間約三百里を、秋葉選手と二人で踏
破せられたのなどは其最も著しいものである。斯くの如く金栗氏の足
跡は我國の津々浦々に及んでゐるのであるが、其偉大なる脚は嘗に我
國內地のみ止つては居なかつた、大正二年スウェーデンのストック

ホルムに於て開かれた、萬國オリンピック大會 大正十一年ベルギーのアントワープに開かれた、萬國オリンピック大會、大正十三年(本年夏)フランスのパリに開かれた、萬國オリンピック大會に三度我國代表選手として出場せられたのであつた、此等の舞臺では異國の氣候食物等の影響を受けたのみならず、我國の土砂道で練習した金栗氏は外國の走路が、悉く石道又はアスファルト道であつた爲め遺憾ながら其偉力を充分發揮するを得なかつたが、金栗氏の足跡は今や全日本は勿論諸外國にも及んでゐるのである。記者は一夕此世界的マラソン選手の門を叩いて其の道路觀を聞いた、今之を茲に紹介することとしたのである。右一言金栗氏を紹介し併せて氏に感謝の意を表する爲め云爾(省吾生記)

日本の道路

道路のよしあしは交通運輸の上に、どの位重大な影響を與ふるものであるかについて吾人はそんなに氣にとめて居ない様だ、氣にかけて居てもよりよくする事に努力しないのは事實である。

始め造る道路を思ひ切つて理想に近くするのが第一で、よしその當時は多少の負擔を受けても数十年の後になるとその負擔は十分に取いかへし得るもので、將來、子孫の爲である。

我々は現在目の前の事だけには全力を盡すが將來の計を建

てる習慣が欠けて居る、之の欠點がいろいろの方面に表れ、道路の悪い、不便至極なと云ふ事もその一例であると思ふ。自分が數年前、樺太から東京迄踏破し、次は下關から東京迄踏破したのによつて各地方の道路を見ると、國道はこの部分もかなりくよなつてきた様に見えた。即ち道路面が凸凹少なく、砂利をよく混じ、雨が降つても泥だらけになると云ふ事も少い、人も、車馬も案内樂に通行が出来る。殊に街道は田舎道より手入も行きとゞき交通上には餘程よくなつて居る。

然し新開地の道路は仲々悪い、たゞ野や丘を新に切り開いて道となしたに過ぎず、一度雨がふる、之の上を車馬や人が往來すれば泥濘膝を没するばかりである、全く危険を感じる、之のひどい道路に砂利を混入したのはよい方である。砂利を混入するにしても度々入れなければならぬ、北海道や、樺太の道は泥のまゝのが多くて雨のあとや、雪とけのあとになると泥濘膝を没すると云ふのは本當な話である。自分が此等の泥道を走つて居るうち雨にふられてかなり、迂るのと足が地にはいり込むのに閉口した經驗がある。それから天然のまゝの道路は天氣がよくなると乾燥して風の爲に砂塵が飛ぶ。北海道地方でも市街地にはいると道路の修繕も多少は行き

届いて、砂利混入のため雨がふつても人や車馬の通つたあとが数寸も数尺も凹むと云ふ事は少い様である。

青森から下關迄の國道は數千年の歴史をもつて居るので凸凹も案内少く、硬度もあり、少し位の雨では泥濘膝を没すると云ふ悲惨な光景は演出しない、然し車馬の交通の頻繁な道路はそのあとが深く凹んで居る。

臺灣にも臺北から南方の高雄まで旅行し主要な都會には下車して市街及びその近郊を歩行、または走つて見たが、臺北市街の如きは、アスファルト道路で雨が降つても、日が照つても平氣で、普通の泥道とは比較にならない便利さがあつた。

現今、日本の大都市にはその街道を改良、修繕して居る、その改良として、普通の泥ばかりでない、アスファルト・コンクリート、木道等が完成されつゝあるのは人の單なる通行丈でなし、荷物の運搬上から見ても、どの位の便利を與へて居るか想像以上である。

外國の道路

外國でも米國、英國、フランス、ドイツ等は少くとも、街路丈はアスファルトか木道に造つて、天然のまゝの市街道は見當らない、田舎に行つて見ると、アスファルト道は見當ら

ないが之に代るものとしては、石道が多い、之の石道は、中世紀に出來た都會地には最多く、ヨーロッパではベルギー等の田舎道に多く見受ける處である。勿論、天然のまゝの道路や、砂利を混入した道路もあるにはあるが、日本の様に到處に見受けると云ふわけにはゆかぬ。

走りよい道路

我々は日本の道でマラソンを練習して居るから日本の道路を走るのが都合がよい、氣持よくて、速力も出る様に思はれる。

大正九年夏ベルギーのアントワープで舉行されたオリムピック大會に私は參加して、マラソン競走に出場した。そのマラソン走路は殆ど石道であつた、尺大の石を敷き詰めてある、之の石は車馬の通交の爲めに表面が凸凹が出來て足を以て踏みつけても平均がとれない、之の不便の上に石の堅さで、膝等の關節をよくいためた、之れは、石に不馴れの選手どもであつた。日本なら電車を走る様で、疲れの度は普通の道の數倍であらう。

本夏、フランスのバリで行はれた、オリムピック大會に私は參加しマラソンに出場したが、マラソン走路十里餘のうち

九里位はアスファルト道であつた、アスファルト道も日本人には馴れて居ないから堅くてよく足を痛める、之の上にアスファルトは夏は臭氣を發して、不馴れの私等日本選手には嗅覺を刺戟し過ぎる傾向があると思ふた、然しアスファルト道での練習さえ長くやれば、日本の道の様な、泥や、小さな砂のある凹凸の激しい道や、または、石道の様な堅いのよりは、走りよくなるであらうと考へた。

道路の改善

泥道は雨がふると沁るにきまつて居る、沁らぬ様に踏みしめるのには餘分の力が必要である。また、小粒の砂を踏むと幾分沁る、之を沁らぬ様に足の筋肉や、精神を緊張させねばならぬ不便がある、此の反面に利する處は柔かな道だから、脚部の筋肉、關節を疲らす事が少くてすむ。

石道を走るのはマラソン競走する選手には疲れの點から第一であらう。幸日本には石道が殆ど起らずとすむ、然し外國には石道が多いから世界各國から集つたオリムピック大會に出場する選手は、石道たりとも十分練習しておく必要がある。

アスファルト道は、前二者の欠點をあまり持つて居ない、なる程堅い事は堅いが、多少弾力性を有するのと軟かさがあり表面は殆ど平坦である爲めに足の使ひかたが平均して居る。

他の方面から見た最良の道路はどんな道路かはいざ知らず、たゞ單にマラソン競走道として丈で見ても第一はアスファルト道であらう、次は普通の道路に砂利を混入した道路であると思ふ。石道、コンクリート道、自然のままの道は前二者に比して劣つて居る。

我國では、國道をアスファルト道に改良する事は實現は到底困難な事であらう、然らば從來も實行してきた砂利を混入する事を今よりも度々やつて堅くすることが實行容易の事である。

道路改善の爲には莫大な經費が必要である、それには各人の負擔を一時増額する事も、國家百年の大計より見てやむを得ない事で、吾人はその負擔を脊負ふ覺悟がなくてはならぬ。殊に文明の利器たる、自動車の利用が多くなつてきた以上は現在のまゝの道路では到底満足すべきでない、殊に國の體面からしても一國の帝都たる東京市街路が雨降れば泥が流

れ、風吹けば砂塵飛ぶ様では、英國の一小領地たる、ホンコンやシンガポールの道路にも及ばぬのを残念と思ふのである。

◎六橋同一様式論に對する抗議

K · K 生

先月號の『隅田川に架すべき六橋は同一様式たるべし』と云ふ一文を読んで一寸面白い感じがしたから一言述べさせて貰ふ。

その前に一寸斷つて置くが、私は道路や橋梁の技術上のことに就ては全々素人である、で雑誌「道路の改良」も時々田中さんから貰ふが、何分内容が専門的に亘り讀んだ所で少しも解らないから、いつも目次と寫眞位を見て放り出してしまつた。十一月號もその通り電車の中で一通り目次だけを讀んだ、所が前記の一文が短くて且つ隅田川に架すると云ふことが興味を惹き、思はず讀んでしまつた。私は今此處で筆者に對して反駁するとか、誹謗するとかと云ふやうな、大それた考へからでなく、只一市民としての感じ若しくは希望と云ふ程度で簡單に述べやうと思ふ。

野田技師は「費用の節約も一つの有利の點とすることは勿論であるがその點以外に同一設計を理想的とする」と費用の點に重きを置かずに同一様式論を主張し、種々の例を擧げて説明して居る、その内で同じものが六つ並んでも單調ではない、それは整列した兵士の制服は何萬並んでも皆一様で何等單調を感じず、又毎日米の飯を食つても單調を感じないと同様であると云はれて居る。これは随分誤つた觀察ではないかと思ふ。この例證を楯に彼これ論じた所で仕方がないが、只一言技術家と云ふものは事物を觀察するとき機械的に一つのものとしてみようと云ふ非難が免かれなと思ふ。日常の仕事が技術で、總てのことが數理的に運ぶのであるから、こうした觀察するのは單に野田技師一人ではなからう、技術家の陥り安い誤謬に陥つたとも云をうか、兎も角これでは味憎